

アイコの不満

話し合いを中心とした展開

- (1) 主題名 基本的な生活習慣 [1 - (1)] 関連項目 [1 - (5)]
- (2) ねらい 望ましい生活習慣を身に付け節度を守った生活に心がけることが意義ある生き方に
つながるということに気付かせ少しずつ行動に移そうとする態度を育てる。
- (3) 資料名 「アイコの不満」
- (4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と生徒の心の動き	留 意 点
導 入	1 入学当初の自分の生活目標を見直す。	4 月には 人がこうでした。さて、 なんでしょう？ ・欠席した人数 ・遅刻した人数 これは、『中学校では・・・（例：勉強をがんばる、遅刻しない）』という目標をたてた人の数です。あれから 2 ヶ月たった今、目標を守れているでしょうか。	あらかじめ、生徒が 4 月に書いた「中学校生活でがんばろうと思うこと」の内容をまとめて数字に表したフリップを用意しておく。 後ろの掲示物などを振り返ってもう一度思い出させる。
展 開	2 資料を読む。 3 「アイコ」の説について自分の意見を持ち、学習プリントに書き込む。 4 お互いの意見を班の中で聞き合い、話し合う。 5 意見が分かれていることについて、話し合う。	資料の と について、『アイコの言う通りだ。』と思うところ、『アイコ、それは間違ってるよ。』と思うところがあれば、各自書き出してみましよう。 それぞれが書いたことを読み合い「みんなの意見が一致したこと」「ひとりでも違う意見が出たこと」をカードに書いて、黒板に貼ってください。 では、「遅刻は人に迷惑をかけるわけじゃない」ということについて、自分の意見を発表してみてください。 （同様に資料 について発問する）	特に「目標が守られていない」生徒の表情に注意する。 もう一度自分自身で読ませて、じっくり考えさせる。 机間指導をして、うまく考えが出せるように支援する。 自分の「常識」が人と異なることを認識させる。 読み合ううちに、班の中で説得したり、反論したりするようなことがあってもよい。 「違う意見が出たこと」のカードが貼ってある方に注目させ、ひとつかふたつに話題をしばって意見を求める。
終 末	6 資料に戻って自分を見つめ、考えを書く。	資料に戻って「自分もよくこんなことを考えたり言ったりする」と思うところに線を引いてみましょう。 今日いろいろな人の意見を聞いて自分の生活について反省したこと、逆に自身を深めたりしたことを書いてみましょう。	他人事として批判していても、実は自分の中にも「アイコ」がいることに気付かせる。

「アイコの不満」

中学校に入ってから、もうすぐ二ヶ月たつ。最初のころは「中学校って、小学校とちがっておもしろいな。」と思っていただけ、最近おもしろくないことがいっぱいある。

最近、時々遅刻する。理由はいろいろある。たとえば、つい夜おそくまで起きていて目覚まし時計が鳴ったのに気づかなかったとか、お母さんが起こしてくれなかったとか、今日出すプリントをさがしていたとか、まあいろいろ。

でも、一番多い理由は、私のせいじゃない。私はキョウコと待ち合わせして学校に行くんだけど、キョウコが来るのがおそいから、遅刻してしまう。キョウコは親友だし、「ごめんね。」と言われると、まあしかたがないかと思う。しかも、先に行くとなると、一人で行かないといけないのがいやだ。待ち合わせの場所に時計なんてないし、なんとなく歩いていると遅刻してしまう。

「遅刻」ってすごく悪いように言うけど、たった二三分だし、朝会だって健康観察をしたり、パン袋を出したりしているくらいで、別に困ることはない。通知表とかに「遅刻何回」って書かれても、人に迷惑をかけているわけじゃないから、先生だってそんなに怒らなくてもいいと思う。

親も先生も「高校に行くためには」とよく言う。私、高校なんか別に行かなくてもいい。高校に行くだけじゃらいわけじゃないし、中学校を出たら働くつもり。ハンバーガーショップで働くか、美容師にもなりたい。ペット屋さんで働くのもいいかもしれない。でも、キョウコは高校を受けると言っていたから、キョウコの受ける高校は一応一緒に受けて、もし落ちたら働くのもいい。だから、勉強なんてしなくてもいい。足し算と引き算ができて、まあ漢字が書ければ普通に生きていけると思う。なんで日本人なのに英語なんて勉強しないといけないんだろう。

活用に生かすための実践報告

「アイコの不満」

1 主題の設定

中学生の時期は、自分の価値観だけにとらわれることがあり、小学校ではできていた望ましい生活習慣に対して疑問を持ち、軽視したり反発したりすることもある。

「基本的生活習慣」とされるものには、必ず豊かな将来につながる何かがあり、意義ある生き方につながるということを理解させたい。

対象となるのは第1学年で、そろそろ生活習慣がくずれ、勉強に対しても新鮮な気持ちで薄れてきたと思われる時期に指導するとよい。易きに流れようとする自分を正当化することのないようしっかり自分の生活を見つめさせたい。

2 指導過程の工夫

資料は・からなっている。指導にあたって、まずでは「遅刻や校則違反は、誰にも迷惑をかけていない」という生徒の考えに対して、時間や規則を守ることができる人に成長することの大切さをわからせたい。

また、資料では、何のために勉強するのかということを深めさせたい。限られた日常生活に必要な力だけをつけたのでは、人間としてそれ以上伸びたり変わったりすることはできない。どの教科で学習することも、今すぐでなくても、いつかは自分の生きる力になることがわかるように、生徒の反応をうまくとらえたリードをする必要がある。

3 発問の工夫

導入部分では、興味をもって自分たちの実態を振り返ることができるよう、クイズ形式にした。

展開は、グループの話合いによって出た意見をもとに、考えを深めさせるようにした。内容はクラスの雰囲気などによってかなり違うものになると考えられるので、教師は生徒の反応を可能な限り予想し、それに対してどうアドバイスを与えていくか、ゆさぶっていくかを予め考えておくことが大切である。予想される反応を自分なりの表などにまとめて流れを整理した。

4 生徒の反応（授業後の感想）

意見が分かれたのは資料の場合「友だちが遅刻してきた場合、いけないと思って自分から『早く来て』『先に行くよ』とは言えない。友だちを失うのがこわい。」「時間を守られない人は、いつか人に迷惑をかけるといっても、結局困るのは自分なのではないか。」という部分。資料の場合「高校に行かなくても中学を出て働けばいい。仕事は選べなければいい。」「小学校までの勉強だけで生きていけるはずだ。」という部分だった。

うまく話し合えていないグループには、白熱しているグループの話合いの流れを紹介すると、生徒がきっかけをつかむことができた。

5 実践者からの一言

資料の場合は、自分たちで考えさせるだけでなく、就職の実態や、何のために働くのかなど、その後の進路学習にもつながるきっかけを与えることができた。「アイコ」は、基本的生活習慣ができていないことをすべて正当化して周囲をあきれさせていた生徒をモデルにしている。彼女の言葉の中に、今こそ生徒に考えさせておかなければならないことの重要なヒントがたくさんあった。そこから資料を作成した。

（高取北中学校 水登伸子）